

2014/1/17

柏の景気情報（平成25年12月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援二課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成25年12月分）

○ 調査期間 : 平成25年12月19日 ~ 12月25日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	83	53.2%
建設	44	22	50.0%
製造	33	14	42.4%
卸・小売	43	35	81.4%
サービス	36	12	33.3%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

--

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成25年12月の調査結果のポイント】

◀消費税増税前のかけこみ需要があるものの、先行感は不透明感が強い▶

○12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.4(前月水準▲14.9)となり、マイナス幅が0.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△13.6(同△8.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲37.1(同▲45.4)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲16.6(同▲6.6)である。

【建設業】からは、「すべて不足している。」(土木工事業)、「景気回復のムードはあるが実感までは、あと一步！何でも安くの前例で工事受注の辞退も出てきている。適正価格にする事が望まれる。」(電気工事業)、「4月以降の冷え込みが心配である。」(塗装工事業)、「建設業だけではなく、スポーツ施設・駐車場等の広く多くの業種で忙しいとの声がある。」(土木工事業)、「先月から比べると売上減。畳縁(へり)バックや畳小物の売上は増加。仕事納めまでひとつひとつ丁寧に取り組みたいです。」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「利益は円安影響が大きい。」(織物業)、「福島原発関連の仕事が出てきた。原材料価格は思ったほど円安の影響は受けていない。」(特殊産業用機械)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「序盤は動員苦戦。クリスマスピーク時にはプロジェクションマッピング効果により動員増も、堅調に推移していた宝飾・時計・美術工芸品などが苦戦。おせち・クリスマスケーキは前年並みに推移。」(百貨店)、「商圈でのショッピングセンター開店により来街者が大幅減少、歳末のDMも全く効かなかった。」(婦人・子供服小売業)、「前半は冬物衣料の動きが良かったが、最近では良くない。バーゲンの値下げを待っている様な感じです。」(その他の各種商品小売業)、「クリスマス商戦では、ホールケーキ予約に比べ、カットケーキの行列が伸びていた傾向があります。」(百貨店)、「12月度は初旬気温が高かったこともあり、防寒物とアウターの動きが鈍かったことから出足は苦戦したものの、冷え込みが厳しくなつてからは回復傾向がみえてきた。」(その他の各種商品小売業)、「仕入れ原価高騰。ギフトは比較的好調。一人あたりの買い上げ点数は上向き傾向。」(各種食料品小売業)、「クリスマス関連のイベント注文は前より増だが、当のクリスマスはデコレーションの売上数が減る。」(菓子・パン小売業)、「PB商品の売行き好調。コーヒー(入れたて)等好調。」(その他の各種商品小売業)、「最近の青果物は、年末年始に向けた取引から活発となってきましたが、最近の冷え込みや雨の影響から生育遅れもあり入荷減少となって野菜果実ともに一部の品目では高値傾向となっています。」(食料・飲料卸売業)、「大手が人員確保を行っている為、競争で人員の確保に走る為、人件費の高騰につながっている。」(一般機械器具卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「宿泊は売上げは伸びてきているもののインターネットAGTからの予約が増えて手数料が大きく増える。宴会は順調に推移するも昨年実績の伸びは無し。」(ホテル)、「個人需要の12月は国内・海外とも前年オーバー。1~3月の第4四半期も国内・海外とも前年オーバー。法人需要の12月は前年をクリア。第4四半期も個人需要の動きに引っぱってもらいたい。」(旅行業)、「お客様からの問合せ、契約数は不変で、一時の状況よりは改善しています。」(不動産管理業)、「仲間の賃貸業者の柏駅徒歩15分のアパートは半分があいてしまっています。駅周辺のにぎわいだけでは無理があるのでは？」(不動産賃貸業)、「総じて、駅徒歩の住居系賃貸は良好、テナントも条件によりますが賃料安定しています。過去の賃料や条件にこだわらず、物件の環境や吸引力に見合った賃料設定とニーズの供給が出来るか否かが鍵。」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎消費税増税

各業種から、「来年4月の消費税増税を控え、問い合わせはあるが、価格はあいかわらず厳しいものがある。4月以降の冷え込みが心配である。」(塗装工事業)、「4月消費税増税を前に3月頃から仮需を予測。」(酒類製造業)、「消費税かけ込み需要で製品が売れているようだが、来年4月以後が心配です。せめてアベノミクス効果であってほしい。」(紙製容器製造業)、「景気上向きを匂わせているが、実感がないまま増税に向かいそう。年末セールが毎年落ち込んでいる。今年も下降が止まらなかった。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種から、「消費税UPの駆け込み需要か、職人不足が引き続きみられる。物資の納入にも時間がかかる。」(一般土木建築工事業)、「職人不足、仕入単価が上がりそう。(品物不足が始まった)」「(その他の職別工事業)、「新規の仕事はあるのですが、据付者不足で受注制限を行っている状況。」(一般機械器具卸売業)、「人手不足(職人)と、東北の復興需要により、人件費・資材の高騰で採算は悪化しています。」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎原材料の値上げ

各業種から、「原材料の値上げが止まりません。特に卵とアーモンド。」(菓子・パン小売業)、「年の瀬になり、すべての仕入れ値が上昇している。原価率を上げて集客を計った。売上げは上昇したが・・・。」(酒場・ビヤホール)、「原材料の値上げやメニュー表示問題(景品表示法)により食品表示(メニューの記載)方法が厳しくなってきた。」(ホテル)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲17.2	△3.8	▲23.5	▲41.6	△14.2
8月	▲21.5	△3.8	▲17.6	▲45.4	▲17.6
9月	▲22.5	△7.6	▲22.2	▲50.0	▲17.6
10月	▲12.7	△25.0	±0.0	▲41.9	▲26.6
11月	▲14.9	△8.3	△6.6	▲45.4	▲6.6
12月	▲14.4	△13.6	±0.0	▲37.1	▲16.6
見通し	▲19.2	±0.0	▲7.1	▲40.0	▲8.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成25年12月の業況についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.4(前月水準▲14.9)となり、マイナス幅が0.5ポイント縮小した。

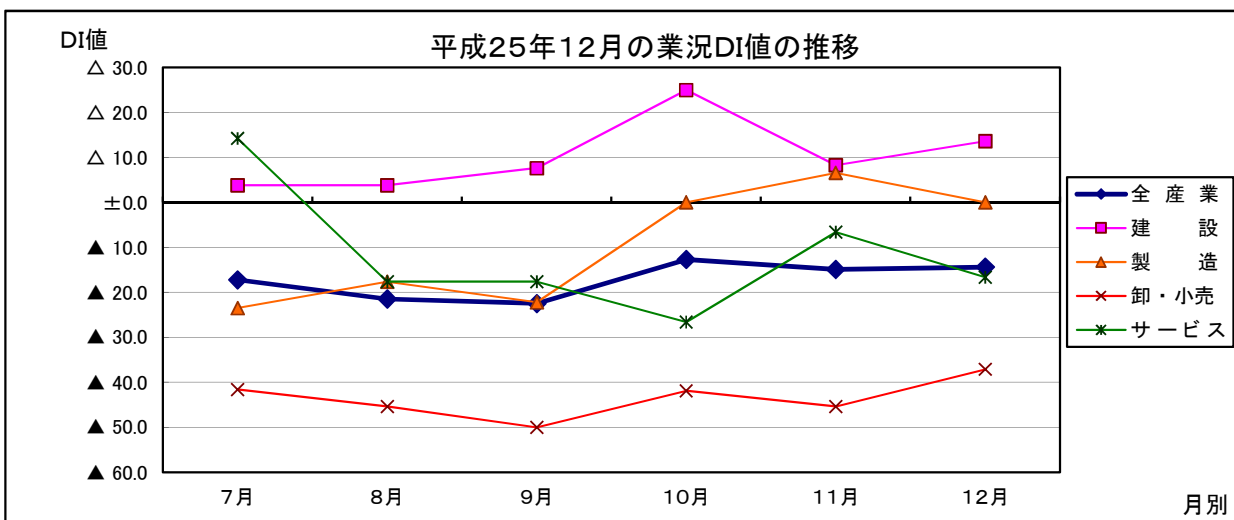
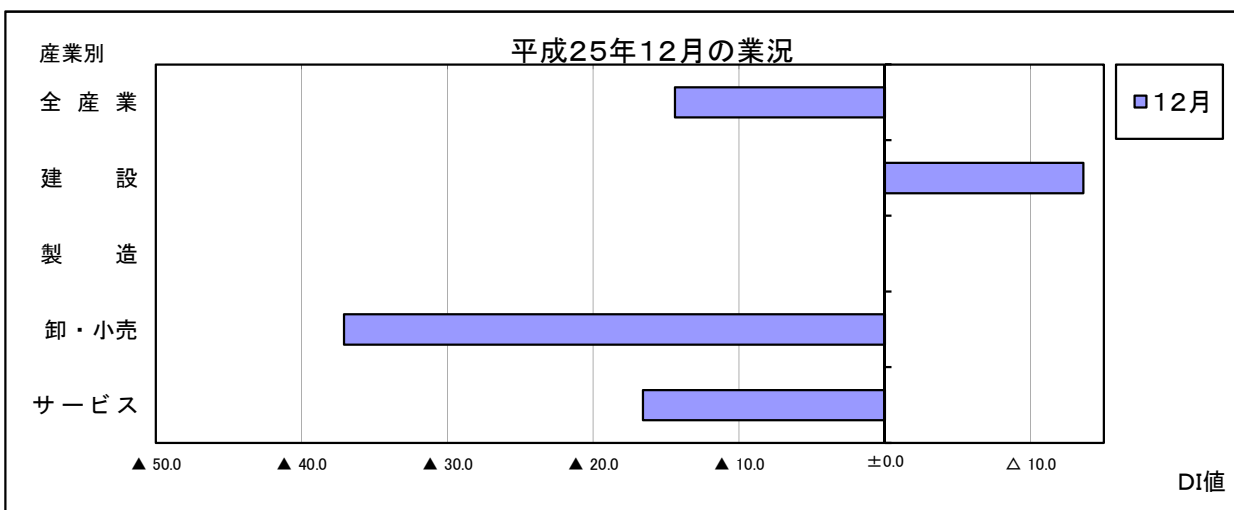
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△13.6(同△8.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲37.1(同▲45.4)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲16.6(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.2(前月水準▲10.3)となり、マイナス幅が8.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲8.3(同▲13.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△8.3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲7.1(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲40.0(同▲27.2)である。

平成25年12月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲17.2	▲21.5	▲22.5	▲12.7	▲14.9	▲14.4	▲19.2(▲10.3)
建設	△3.8	△3.8	△7.6	△25.0	△8.3	△13.6	±0.0(△8.3)
製造	▲23.5	▲17.6	▲22.2	±0.0	△6.6	±0.0	▲7.1(±0.0)
卸・小売	▲41.6	▲45.4	▲50.0	▲41.9	▲45.4	▲37.1	▲40.0(▲27.2)
サービス	△14.2	▲17.6	▲17.6	▲26.6	▲6.6	▲16.6	▲8.3(▲13.3)



【平成25年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1. 2(前月水準▲8. 0)となり、マイナス幅が6. 8ポイント縮小した。

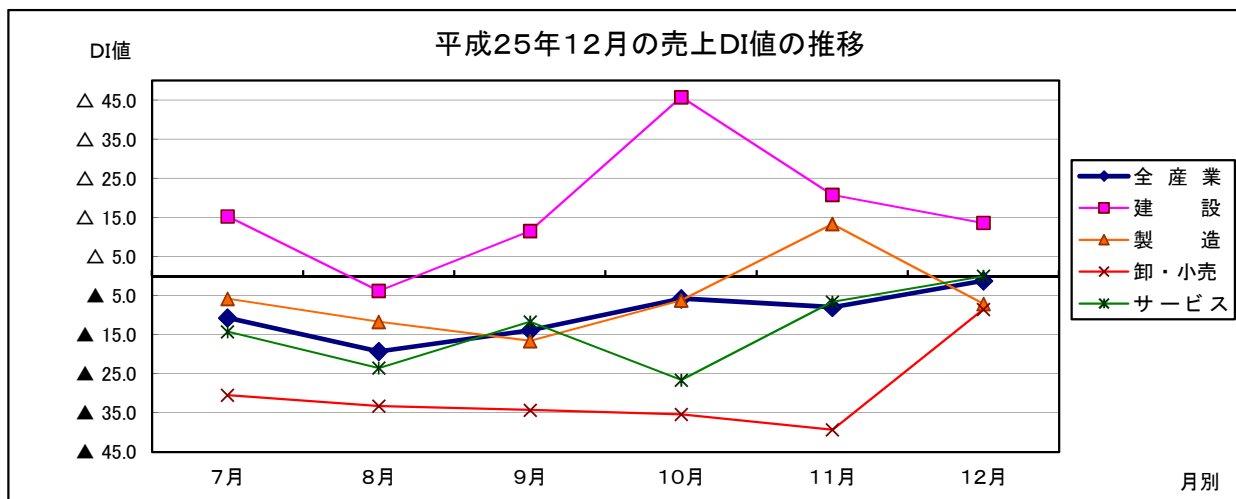
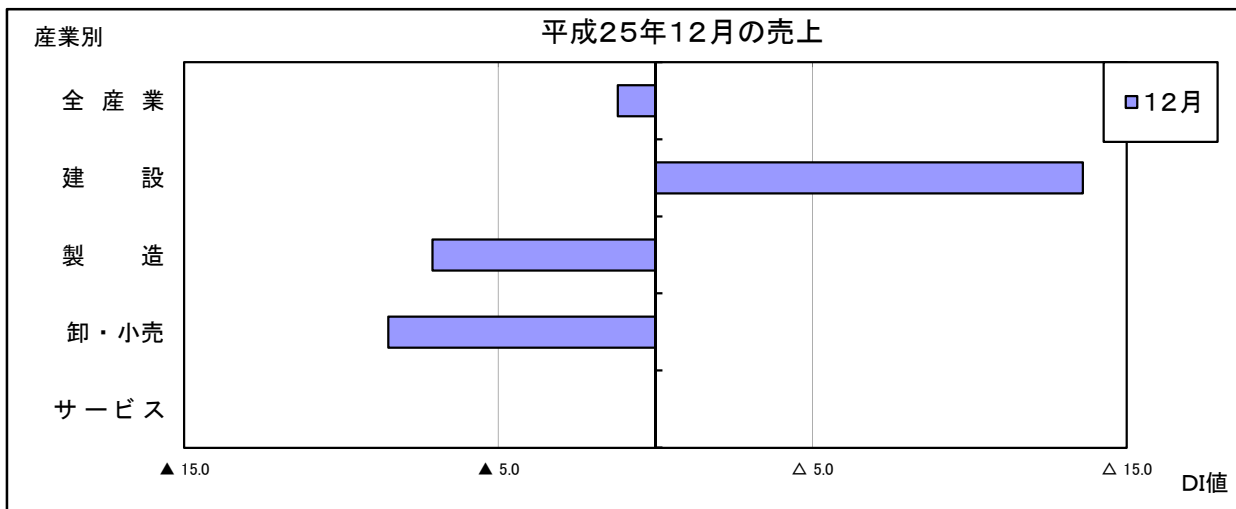
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0. 0(同▲6. 6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲8. 5(同▲39. 3)で、マイナス幅が30. 8ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、建設業△13. 6(同△20. 8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲7. 1(同△13. 3)で、プラス幅が20. 4ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6. 0(前月水準△4. 5)となり、プラス幅が10. 5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△16. 6(同▲13. 3)で、プラス幅が29. 9ポイントと大幅に拡大する見通しである。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△13. 6(同△33. 3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲21. 4(同△6. 6)で、プラス幅が28. 0ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲20. 0(同▲9. 0)である。

平成25年12月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲ 10.7	▲ 19.3	▲ 13.9	▲ 5.8	▲ 8.0	▲ 1.2	▲ 6.0 (△ 4.5)
建設	△ 15.3	▲ 3.8	△ 11.5	△ 45.8	△ 20.8	△ 13.6	△ 13.6 (△ 33.3)
製造	▲ 5.8	▲ 11.7	▲ 16.6	▲ 6.2	△ 13.3	▲ 7.1	▲ 21.4 (△ 6.6)
卸・小売	▲ 30.5	▲ 33.3	▲ 34.3	▲ 35.4	▲ 39.3	▲ 8.5	▲ 20.0 (▲ 9.0)
サービス	▲ 14.2	▲ 23.5	▲ 11.7	▲ 26.6	▲ 6.6	±0.0	△ 16.6 (▲ 13.3)



【平成25年12月の採算についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.0(前月水準▲18.3)となり、マイナス幅が5.7ポイント拡大した。

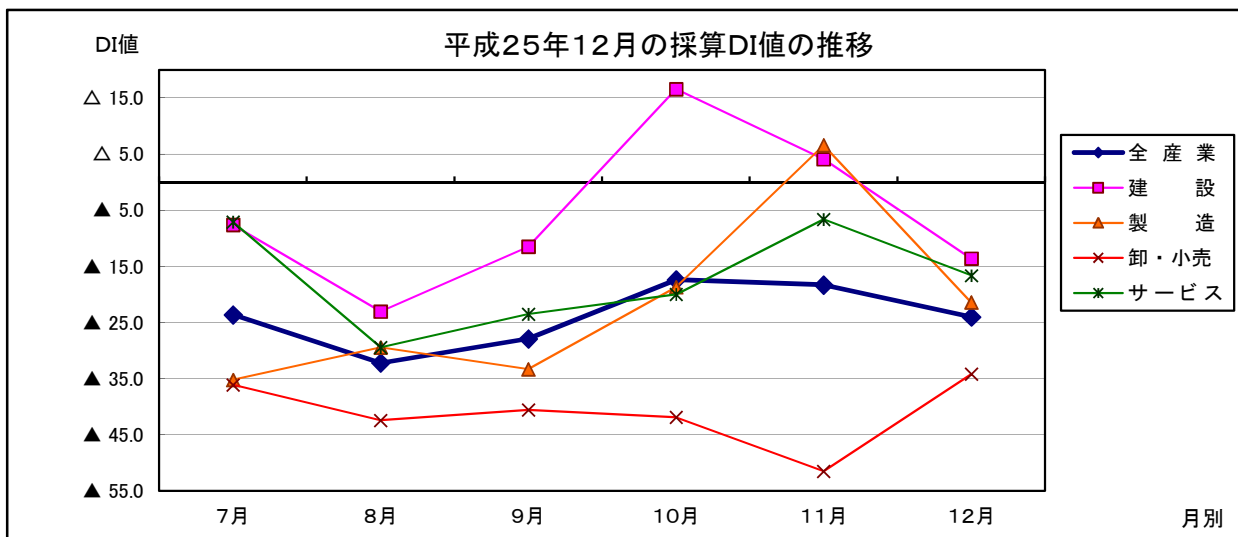
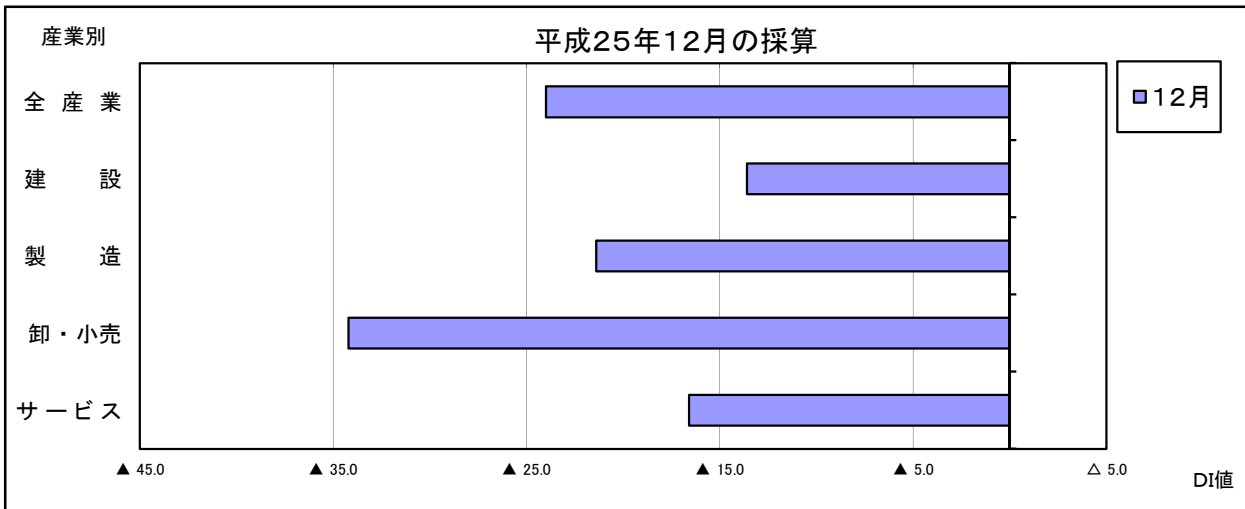
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲34.2(同▲51.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に、製造業▲21.4(同△6.6)、建設業▲13.6(同△4.1)で、製造業はプラス幅が28.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲16.6(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲30.1(前月水準▲17.2)となり、マイナス幅が12.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲13.6(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲48.5(同▲33.3)、サービス業▲25.0(同▲13.3)、製造業▲14.2(同▲13.3)である。

平成25年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲23.6	▲32.2	▲27.9	▲17.4	▲18.3	▲24.0	▲30.1(▲17.2)
建設	▲7.6	▲23.0	▲11.5	△16.6	△4.1	▲13.6	▲13.6(±0.0)
製造	▲35.2	▲29.4	▲33.3	▲18.7	△6.6	▲21.4	▲14.2(▲13.3)
卸・小売	▲36.1	▲42.4	▲40.6	▲41.9	▲51.5	▲34.2	▲48.5(▲33.3)
サービス	▲7.1	▲29.4	▲23.5	▲20.0	▲6.6	▲16.6	▲25.0(▲13.3)



【平成25年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.7(前月水準▲49.4)となり、マイナス幅が3.7ポイント縮小した。

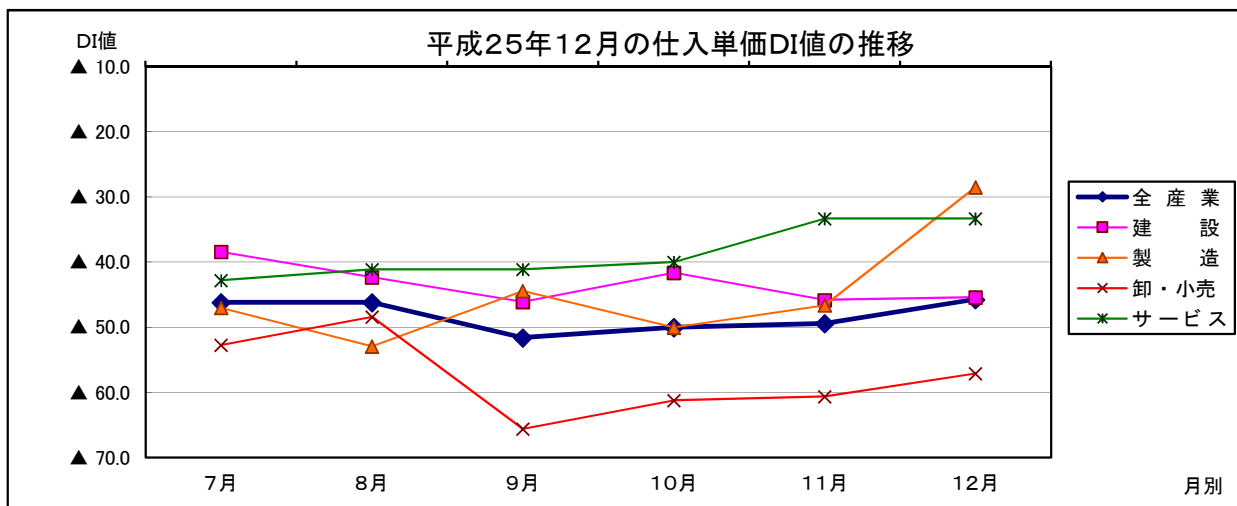
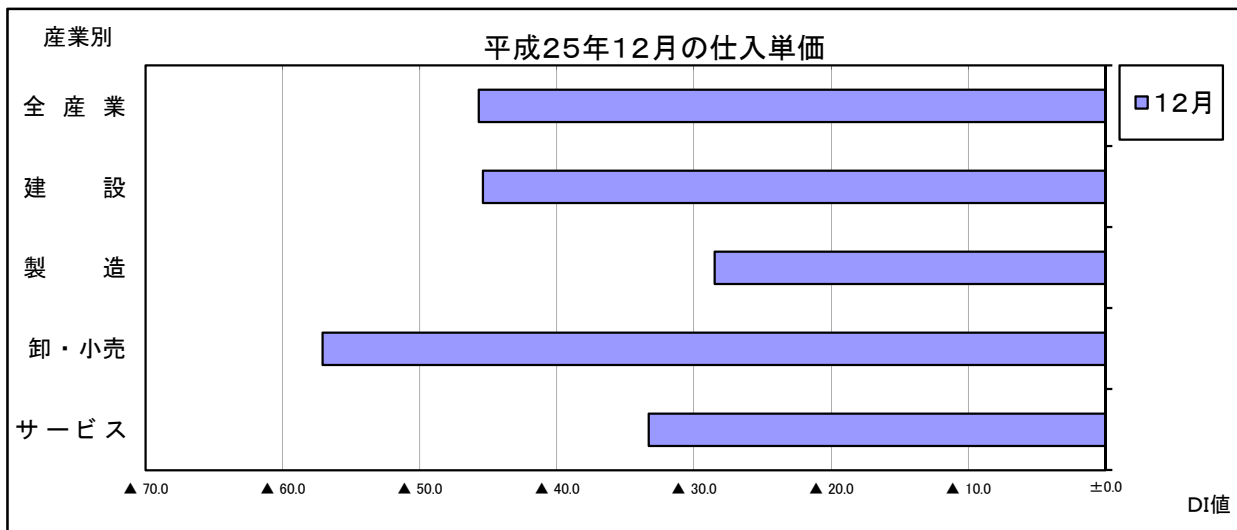
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲28.5(同▲46.6)、卸小売業▲57.1(同▲60.6)、建設業▲45.4(同▲45.8)である。変らない業種は、サービス業▲33.3(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲32.5(前月水準▲47.1)となり、マイナス幅が14.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲14.2(同▲40.0)、サービス業▲8.3(同▲26.6)、卸小売業▲42.8(同▲60.6)、建設業▲40.9(同▲45.8)で、特に、製造業はマイナス幅が25.8ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成25年12月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲46.2	▲46.2	▲51.6	▲50.0	▲49.4	▲45.7	▲32.5(▲47.1)
建設	▲38.4	▲42.3	▲46.1	▲41.6	▲45.8	▲45.4	▲40.9(▲45.8)
製造	▲47.0	▲52.9	▲44.4	▲50.0	▲46.6	▲28.5	▲14.2(▲40.0)
卸・小売	▲52.7	▲48.4	▲65.6	▲61.2	▲60.6	▲57.1	▲42.8(▲60.6)
サービス	▲42.8	▲41.1	▲41.1	▲40.0	▲33.3	▲33.3	▲8.3(▲26.6)



【平成25年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△1.2(前月水準△5.7)となり、プラス幅が4.5ポイント縮小した。

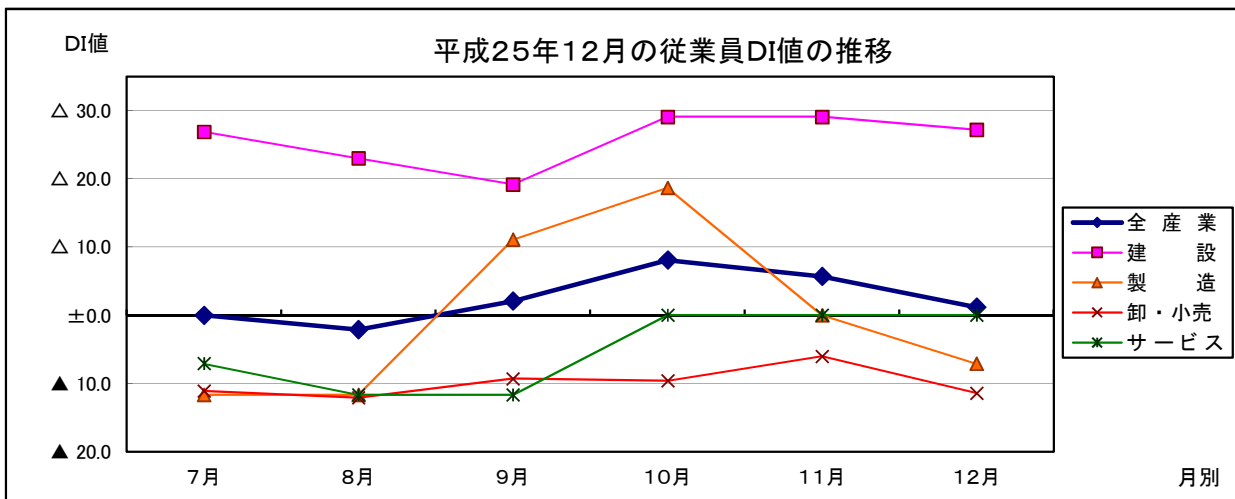
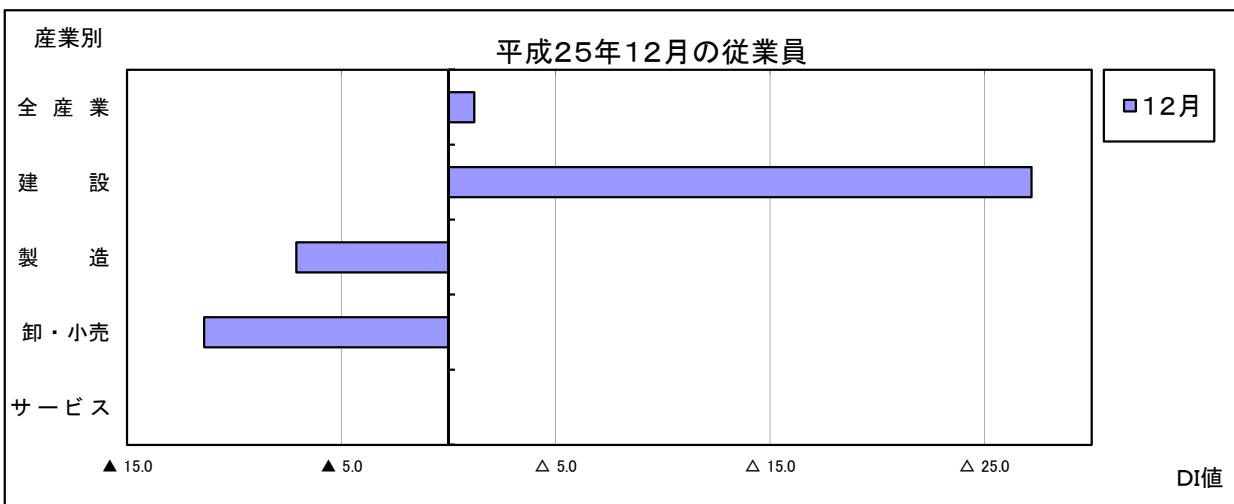
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△27.2(同△29.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲7.1(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲11.4(同▲6.0)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、△3.6(前月水準△9.1)となり、プラス幅が5.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△7.1(同△6.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲5.7(同▲6.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△22.7(同△37.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲8.3(同±0.0)である。

平成25年12月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	±0.0	▲2.1	△2.1	△8.1	△5.7	△1.2	△3.6(△9.1)
建設	△26.9	△23.0	△19.2	△29.1	△29.1	△27.2	△22.7(△37.5)
製造	▲11.7	▲11.7	△11.1	△18.7	±0.0	▲7.1	△7.1(△6.6)
卸・小売	▲11.1	▲12.1	▲9.3	▲9.6	▲6.0	▲11.4	▲5.7(▲6.0)
サービス	▲7.1	▲11.7	▲11.7	±0.0	±0.0	±0.0	▲8.3(±0.0)



【平成25年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.0(前月水準▲6.8)となり、マイナス幅が5.2ポイント拡大した。

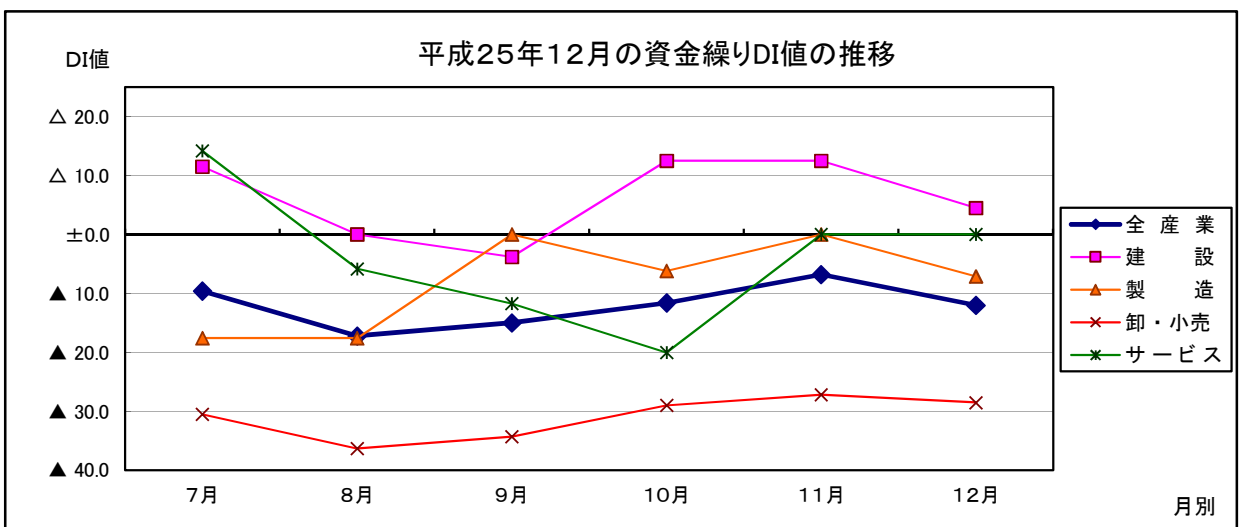
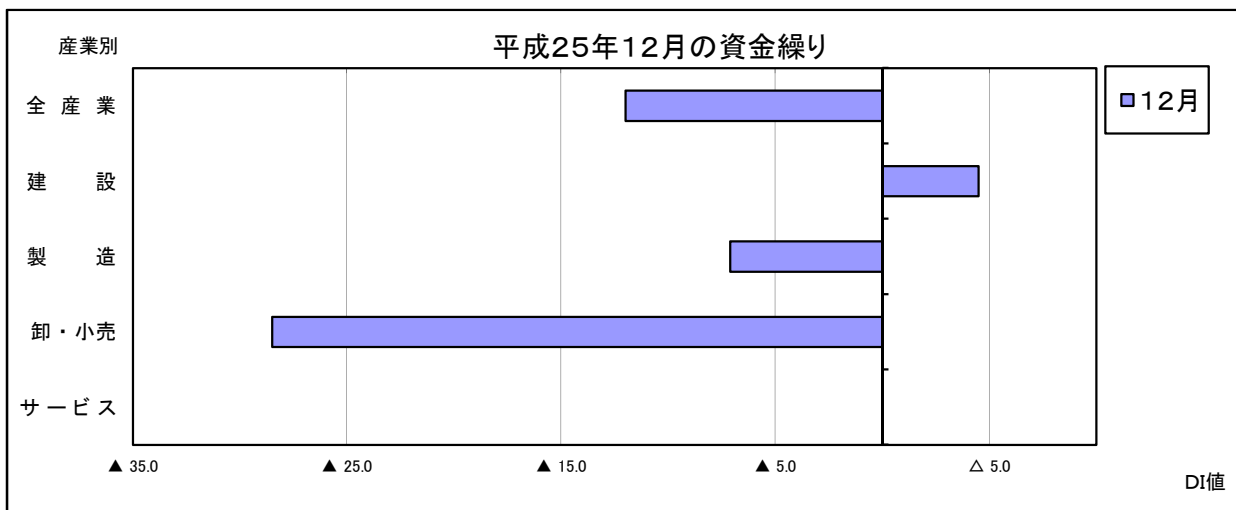
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△4.5(同△12.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲7.1(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲28.5(同▲27.2)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.4(前月水準▲14.9)となり、マイナス幅が0.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△4.5(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲31.4(同▲36.3)である。変らない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲14.2(同▲6.6)である。

平成25年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成25年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲9.6	▲17.2	▲15.0	▲11.6	▲6.8	▲12.0	▲14.4(▲14.9)
建設	△11.5	±0.0	▲3.8	△12.5	△12.5	△4.5	△4.5(±0.0)
製造	▲17.6	▲17.6	±0.0	▲6.2	±0.0	▲7.1	▲14.2(▲6.6)
卸・小売	▲30.5	▲36.3	▲34.3	▲29.0	▲27.2	▲28.5	▲31.4(▲36.3)
サービス	△14.2	▲5.8	▲11.7	▲20.0	±0.0	±0.0	±0.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 1.2	▲ 6.0	▲ 24.0	▲ 30.1	▲ 45.7	▲ 32.5	△ 1.2	△ 3.6
建設	△ 13.6	△ 13.6	▲ 13.6	▲ 13.6	▲ 45.4	▲ 40.9	△ 27.2	△ 22.7
製造	▲ 7.1	▲ 21.4	▲ 21.4	▲ 14.2	▲ 28.5	▲ 14.2	▲ 7.1	△ 7.1
卸・小売	▲ 8.5	▲ 20.0	▲ 34.2	▲ 48.5	▲ 57.1	▲ 42.8	▲ 11.4	▲ 5.7
サービス	±0.0	△ 16.6	▲ 16.6	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 8.3	±0.0	▲ 8.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 14.4	▲ 19.2	▲ 12.0	▲ 14.4
建設	△ 13.6	±0.0	△ 4.5	△ 4.5
製造	±0.0	▲ 7.1	▲ 7.1	▲ 14.2
卸・小売	▲ 37.1	▲ 40.0	▲ 28.5	▲ 31.4
サービス	▲ 16.6	▲ 8.3	±0.0	±0.0

【平成25年12月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設業	消費税UPの駆け込み需要か、職人不足が引き続きみられる。物資の納入にも時間がかかる。	消費税増税 駆け込み需要 人手不足	一般土木建築工事業
	すべて不足している。	すべて不足	土木工事業
	景気回復のムードはあるが実感までは、あと一歩！何でも安くの前例で工事受注の辞退も出てきている。適正価格にする事が望まれる。	景気回復のムード 受注辞退 適正価格	電気工事業
	来年4月の消費税増税を控え、問い合わせはあるが、価格はあいかわらず厳しいものがある。4月以降の冷え込みが心配である。	消費税増税 問合せ増 消費税増税後の反動	塗装工事業
	建設業だけではなく、スポーツ施設・駐車場等の広く多くの業種で忙しいとの声がある。	仕事量増加	土木工事業
	先月から比べると売上減。畳縁(へり)バックや畳小物の売上は増加。仕事納めまでひとつひとつ丁寧に取り組みたいです。	売上げ減 小物好調 仕事納め	内装工事業
職人不足、仕入単価が上がりそう。(品物不足が出始めた)	人手不足 品物不足	その他の職別工事業	
製造業	利益は円安影響が大きい。	円安の影響	織物業
	福島原発関連の仕事が出てきた。原材料価格は思ったほど円安の影響は受けていない。	福島原発 円安の影響	特殊産業用機械
	4月消費税増税を前に3月頃から仮需を予測。	消費税増税	酒類製造業
	消費税かけ込み需要で製品が売れているようだが、来年4月以後が心配です。せめてアベノミクス効果であってほしい。	消費税増税 駆け込み需要 消費税増税後の反動 アベノミクス	紙製容器製造業
卸小売業	序盤は動員苦戦。クリスマスピーク時にはプロジェクションマッピング効果により動員増も、堅調に推移していた宝飾・時計・美術工芸品などが苦戦。おせち・クリスマスケーキは前年並みに推移。	入店客数苦戦 クリスマス プロジェクションマッピング 高額品苦戦 おせち前年並み	百貨店
	商圈でのショッピングセンター開店により来街者が大幅減少、歳末のDMも全く効かなかった。12月は例年季節指数が改善されるのだが、その気配は無い。ボーナス後多少伸びたが追いつかない。	ショッピングセンター開店 来街者大幅減少 DM効果なし ボーナス	婦人・子供服小売業
	前半は冬物衣料の動きが良かったが、最近は良くない。バーゲンの値下げを待っている様な感じです。	冬物衣料 バーゲン	その他の各種商品小売業
	クリスマス商戦では、ホールケーキ予約に比べ、カットケーキの行列が伸びていた傾向があります。	クリスマス商戦 カットケーキ好調	百貨店
	12月度は初旬気温が高かったこともあり、防寒物とアウターの動きが鈍かったことから出足は苦戦したものの、冷え込みが厳しくなってからは回復傾向がみとれたが、昨年10日から開催した抽選会を今年は18日から開催した影響もあり、大きな盛り返しは見られなかった。18日からの抽選会は序盤悪天候に見舞われ、低調な推移となったが、クリスマス商戦は21日(土)～24日(火)の4日間対比で100.8%という結果であった。年末商戦では館内の流動を図り買い廻りを高めていく。	天候の影響 防寒着苦戦 抽選会 クリスマス商戦 年末商戦	その他の各種商品小売業
	景気上向きを匂わせているが、実感がないまま増税に向かいそう。年末セールが毎年落ち込んでいる。今年も下降が止まらなかった。	景気回復実感無し 消費税増税 年末セール不調	その他の各種商品小売業
	仕入れ原価高騰。ギフトは比較的好調。一人あたりの買い上げ点数は上向き傾向。	仕入れ価格高騰 ギフト好調 買い上げ点数上向き	各種食料品小売業
	クリスマス関連のイベント注文は前より増だが、当のクリスマスはデコレーションの売上数が減る。	クリスマス商戦 ケーキ売上減	菓子・パン小売業
	PB商品の売行き好調。コーヒー(入れたて)等好調。年末予約に力を入れた結果、ギフト・おせち・クリスマス関連商品等、伸ばすことが出来た。	PB商品好調 年末商品好調	その他の各種商品小売業
	原材料の値上げが止まりません。特に卵とアーモンド。	原材料の値上げ	菓子・パン小売業

【平成25年12月の業種別業界内トピックス】

	<p>最近の青果物は、年末年始に向けた取引から活発となってきましたが、最近の冷え込みや雨の影響から生育遅れもあり入荷減少となって野菜果実ともに一部の品目では高値傾向となっています。今後の産地は、年明けでも入荷が少なく品薄となり引き合い強い品目や現状維持できるものなど情報を取りながら、需要と供給のバランスのとれた取引を継続していきます。</p>	<p>天候の影響 入荷減少</p>	<p>食料・飲料卸売業</p>
	<p>天井知らずの高騰で季節労働者の賃金支払い他、現在あおりをかぶっている。赤字幅をせばめる事ができない。来年は又、価格の見直しが急務である。</p>	<p>原材料高騰 価格の見直し</p>	<p>燃料小売業</p>
	<p>新規の仕事はあるのですが、据付者不足で受注制限を行っている状況。大手が人員確保を行っている為、競争で人員の確保に走る為、人件費の高騰につながっている。</p>	<p>人手不足 受注制限 大手の人員確保 人件費高騰</p>	<p>一般機械器具卸売業</p>
サービス業	<p>コース料理の品数を増やす等して、宴会コース内容の変更をした。年の瀬になり、すべての仕入れ値が上昇している。原価率を上げて集客を計った。売上げは上昇したが・・・。</p>	<p>コース料理 原材料の値上げ 原価率</p>	<p>酒場・ビヤホール</p>
	<p>原材料の値上げやメニュー表示問題(景品表示法)により食品表示(メニューの記載)方法が厳しくなってきた。宿泊は売上げは伸びてきているもののインターネットAGTからの予約が増えて手数料が大きく増える。宴会は順調に推移するも昨年実績の伸びは無し。</p>	<p>原材料の値上げ 食品表示方法 宿泊増 インターネット予約 手数料増 宴会順調</p>	<p>ホテル</p>
	<p>個人需要の12月は国内・海外とも前年オーバー。1～3月の第4四半期も国内・海外とも前年オーバー。法人需要の12月は前年をクリア。第4四半期も個人需要の動きに引っぱってもらいたい。</p>	<p>個人需要好調 法人需要好調</p>	<p>旅行業</p>
	<p>お客様からの問合せ、契約数は不変で、一時の状況よりは改善しています。人手不足(職人)と、東北の復興需要により、人件費・資材の高騰で採算は悪化しています。</p>	<p>契約数不変 人手不足 東北復興需要 人件費高騰 原材料高騰 採算悪化</p>	<p>不動産管理業</p>
	<p>仲間の賃貸業者の柏駅徒歩15分のアパートは半分があいてしまっています。駅周辺のにぎわいだけでは無理があるのでは？</p>	<p>郊外賃貸物件</p>	<p>不動産賃貸業</p>
	<p>総じて、駅徒歩の住居系賃貸は良好、テナントも条件によりますが賃料安定しています。過去の賃料や条件にこだわらず、物件の環境や吸引力に見合った賃料設定とニーズの供給が出来るか否かが鍵。</p>	<p>駅近賃貸物件良好 賃料設定の見極め ニーズの供給</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>

◎消費税増税

- ・ 来年4月の消費税増税を控え、問い合わせはあるが、価格はあいかわらず厳しいものがある。 塗装工事業
- ・ 4月消費税を前に3月頃から仮需を予測。 酒類製造業
- ・ 消費税駆け込み需要で製品が売れているようだが、来年4月以後が心配です。 紙製容器製造業
- ・ 景気上向きを匂わせているが、実感がないまま増税に向かいそう。 その他の各種商品小売業

◎人手不足

- ・ 消費税UPの駆け込み需要か、職人不足が引続きみられる。 一般土木建築工事業
- ・ 職人不足、仕入単価が上がりそう。 その他の職別工事業
- ・ 新規の仕事はあるのですが、据付者不足で受注制限を行っている状況。 一般機械器具卸売業
- ・ 人手不足(職人)と、東北の復興需要により、人件費・資材の高騰で採算は悪化しています。 不動産管理業

◎原材料の値上げ






- ・ 原材料の値上げが止まりません。特に卵とアーモンド。 菓子・パン小売業
- ・ 年の瀬になり、すべての仕入れ値が上昇している。 酒場・ビヤホール
- ・ 原材料の値上げやメニュー表示問題(景品表示法)により食品表示(メニューの記載)方法が厳しくなってきた。 ホテル











平成25年12月CCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.4に対し、「CCI-LOBO」が▲7.4で柏の方がマイナス幅が7.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲1.2に対し、「CCI-LOBO」が3.4で柏の方がマイナス幅が4.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は卸小売業。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、サービス業で、建設業と製造業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.0に対し、「CCI-LOBO」が▲14.1で柏の方がマイナス幅が9.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45.7に対し、「CCI-LOBO」が▲50.9で柏の方がマイナス幅が5.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△1.2に対し、「CCI-LOBO」が△9.4で柏の方がプラス幅が8.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、卸小売業、サービス業で、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.0に対し、「CCI-LOBO」が▲8.5で柏の方がマイナス幅が3.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。











平成25年12月の木の景気天気図











木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 14.4	 △ 13.6	 ±0.0	 ▲ 37.1	 ▲ 16.6
CCI-LOBO	 ▲ 7.4	 14.0	 ▲ 2.4	 ▲ 24.2	 ▲ 9.1


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 1.2	 △ 13.6	 ▲ 7.1	 ▲ 8.5	 ±0.0
CCI-LOBO	 3.4	 25.7	 △ 5.6	 ▲ 15.7	 2.9


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 24.0	 ▲ 13.6	 ▲ 21.4	 ▲ 34.2	 ▲ 16.6
CCI-LOBO	 ▲ 14.1	 ▲ 5.7	 ▲ 14.0	 ▲ 23.6	 ▲ 12.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 45.7	 ▲ 45.4	 ▲ 28.5	 ▲ 57.1	 ▲ 33.3
CCI-LOBO	 ▲ 50.9	 ▲ 65.1	 ▲ 54.4	 ▲ 42.6	 ▲ 46.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 1.2	 △ 27.2	 ▲ 7.1	 ▲ 11.4	 ±0.0
CCI-LOBO	 △ 9.4	 △ 27.4	 △ 5.0	 △ 7.6	 △ 9.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 12.0	 △ 4.5	 ▲ 7.1	 ▲ 28.5	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 8.5	 ▲ 3.9	 ▲ 5.9	 ▲ 13.4	 ▲ 9.0

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(12月速報)

調査期間：平成25年12月12日～18日

調査対象：全国の417商工会議所が3128業種
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況
業況DIは、大幅改善。先行きはコスト増で懸念を払拭できず

12月の全産業合計の業況DIは、▲7.4と、前月から+5.4ポイントの大幅改善。91年8月(▲4.4)以来の水準となった。建設業の活況に加え、製造業でも、自動車関連の好調が幅広い業種に波及しつつあるほか、消費者のマイナード好転や冬の賞与増に伴い、高価格帯商品への志向が強まるなど、受注・売上の増加を背景に、中小企業の景気感は回復基調が続いている。他方、仕入や人件費、電力料金などのコスト負担が増す中で、価格転嫁の遅れや、生活必需品に対する消費者の根強い低価格志向により、業況改善が進まない企業もみられ、景気回復の実感はまだら模様となっている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲11.0(今月比▲3.6ポイント)と、悪化が見込まれるものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。建設業や自動車などの製造業によるけん引に加え、消費税引き上げ前の駆け込み需要から、回復基調が続くことを期待。他方、コスト増加分の価格転嫁が遅れている状況が続いているほか、消費税引き上げを見据えて消費を手控える動きが予想されるなど、先行きへの懸念も伺える。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業でほぼ横ばい、その他の4業種で改善した。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「型枠大工や鉄筋工などの人件費が高いため、人材確保が進まず、工期にも影響が出ている」(一般工事業)、「木材価格が年度当初から10%上昇しており、受注増に見合う収益が得られない」(建築工事業)、「主な取引先である鉄鋼や電機メーカーで設備投資の動きが始めており、受注が伸びている」(電気工事業)

【製造業】「仕入や電力料金などのコストが増大しているが、消費者の低価格志向が根強いいため、価格転嫁は当面見送る予定」(食料品製造業)、「ダイニングテーブルを中心に、取引先からの受注が大幅に増加。特に、高価格帯のニーズが高い」(家具製造業)、「取引先である大手企業の業績改善が進み、自社の受注も増加傾向にある」(油圧機器製造業)

【卸売業】「クリスマスや年末年始の需要期を迎え売上が増加しており、業況は好転」(農産物卸売業)、「建築資材の受注は好調なもの、取引先の人手不足が深刻化しており、工期遅れに伴う自社への影響を懸念」(建築資材卸売業)、「売上は伸びたが、仕入や運送に係るコスト増に加え、消費税引き上げに伴うシステム開発の負担が重く、利益が減少した」(衣料品卸売業)

【小売業】「気温の低下とともに、コートやストールなどの冬物衣料が好調。10万円以上の商品や輸入ブランドの人気の高い」(百貨店)、「お歳暮やお年賀など、贈答用の売上が伸びている」(和菓子販売店)、「大型ショッピングモールがリニューアルオープンし、当初進出となる店舗を多数展開。そのため、消費者の流出が止まらず、売上が減少」(衣料品販売店)

【サービス業】「売上は増加しているものの、燃料費の価格転嫁が一部に止まっており、収益改善が遅れている」(運送業)、「忘年会シーズンに入り、宴会予約が好調。メニューも、より単価の高いコースを選ぶ傾向が強まっている」(飲食店)、「観光客の利用は伸びているが、暖房などに係る燃料費の負担が重い」(宿泊業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲14.1	6	▲15.8	▲20.7	▲22.8	▲14.4
8月	▲15.7	3.9	▲20.7	▲26.8	▲25.8	▲10.2
9月	▲15.1	4.1	▲16.2	▲20.7	▲25.1	▲14.7
10月	▲11.9	18.2	▲13.7	▲17.5	▲22.8	▲18.4
11月	▲12.8	14.6	▲11.1	▲16.2	▲26.8	▲18.8
12月	▲7.4	14.0	▲2.4	▲10.6	▲24.2	▲9.1
見通し	▲11.0	0.4	▲4.3	▲8.7	▲19.4	▲18.8

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI